

2011年(平成23年)6月15日(水曜日)

震災 今なすべきこと

グラウンドワーク三島 事務局長

渡辺 豊博氏



「心を元気にするショー
ツアー」を企画したの
も、阪神の経験から子ど
もの心のケアが最も重要

の状況に応じたきめ細か
い支援が不可欠。一律で
情緒的な支援はだめだ。
芸能人が来て「元気を出
そう」と騒いでも、大部
分の被災者は冷ややかに
見ている。

4～5月に計230人
に気が重くなる。海岸沿
いの温泉地に招いた例も
聞くと、津波の被害者が
どう感じるかを真剣に考
えたのか疑問に思う。ま
た、地元の人たちとの交
流がないと、どんな立派
な施設に宿泊しても孤独
を感じてしまう。

心のケア、子どもにも重点

私は1995年の阪神
大震災で50日間、避難所
でボランティアをした。

そんなときにがんばれ
どと声をかけてもプレッ
ションになるだけ。早い段
階で被災地から切り離し
た経験は何度かさせて、
心を軽くすることが大事
だ。当時も約30人の被災
者と一緒に有馬温泉に行
った。翌日には皆、顔
つきが変わっていた。

の家族を伊豆長岡温泉な
どに招いた同ツアーが好
評だったのは、このよう
な事前の準備を十分にし
たからだ。行政や企業に
よる招待旅行で参加者が
集まらない例も目立つ
が、被災者の顔が見えて
いないからだと思う。

参加者には富士山や伊
豆の自然、静岡の人のよ
さが特に好評だった。被
災者支援は長い目で静岡
県ファンを増やすことに
なり、決して一方的なも
のではない。石巻の高校
生は「新婚旅行で必ずま
た伊豆に来る」と宣言し
てくれた。地道に人と人
とのつながりが続けば
地元経済にもプラスにな
ることを、より多くの経
済人に理解してほしい。

復興は着実に進むが、心
の問題はなかなか解決で
きないと痛感した。特に
子どもたちは一見しっか
りしているようでも、震
災の悲惨な記憶が心の中
に沈殿し顔つきが重くな
る。その後も突然記憶が
よみがえって暴れたり、
倒れたりする。いわゆる
パニック症候群だ。

前回の震災で、親子な
どを2泊3日で招待する
心のケアは一人ひとり

1日では短すぎ、1週間
だと被災者が戻るとき逆

は、学生側にもよい勉強
になる。
被災地ボランティアを
する学生の中には自分
が英雄のような態度にな
る者もいる。被災者と一
対一で深くつきあうと、
謙虚に、相手と一
緒に自分も成長してい
くことに気づく。顔の見え
る支援にあくまでこだわ
っていきたい。



静岡

静岡 054-222-0000
浜松 053-422-0000